

〈学術研究集会傍聴記〉

第74回日本体力医学会学会大会傍聴記

野呂 啓晃*

Hiroaki NORO*

2019年9月19日から21日まで、つくば国際会議場で開催された第74回日本体力医学会大会に参加した。3日間にわたり、研究発表（口頭発表、ポスター発表）、シンポジウム、各種企画が行われた。この学会は医学、運動、スポーツなどに関連した分野の研究を広く扱う歴史のある学会である。

一般発表演題では、ランナーの足底腱膜の機能的特性の左右差を検討した発表が印象に残っている。この研究は、ヒト生体内の足底腱膜の硬さを世界で初めて計測した研究者らの研究グループによるものであり、私自身もこのグループによって発表された論文を参考に研究を進めている。この研究の筆頭著者とフロアにて測定方法に関する意見を交換することができた。また、私の所属する研究室のテーマであるシューズに関する研究はこのグループも行っており、この学会においてもミッドソールの物性値の違いが着地動作中の地面反力に及ぼす影響を検証した発表をしていた。足部やシューズに着目している点で非常によく似た研究をしているので、これも非常に参考になる発表であった。

今回、私は共著者として「スプリンターに浮き趾は少ない？」（筆頭：柳谷登志雄先生）の発表に関わった。現在、足部機能に関する研究は国内外問わず活発に行われており注目を集めているトピックで

ある。本研究発表においても活発な議論が行われ、足部機能に関する研究の専門外の先生方からも数多くの質問を頂いた。足趾に関する演題はこの学会を通して複数件見られ、足趾把持力と運動能力に関する研究や足趾把持力のトレーニングに関する研究などが見られた。浮き趾に限らず、足部に関する研究は分野を問わず世界中で行われている。それら研究が世界のみならず、日本国内でも着目を浴びていることを再認識した。

また、私は「ランニング時の足部接地パターンとピッチによって内側腓腹筋の腱動態はどのように変化する？」（筆頭：竹下知成）の演題にも共著者として携わった。接地パターンは近年、注目を集めているトピックである。その接地パターンの違いによる筋腱の動態を観察した研究は世界的にも数少ない。この発表においても多くの研究分野の方々からご意見を頂き、今後の研究に活かせる有意義な場となったように思う。

日本体力医学会大会は非常に多くの研究が発表される。他にも全国津々浦々の研究者により多くの興味深い発表が見られ、自らの知識のアップデートと研究活動について大いにモチベーションを刺激された学会であった。

* 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 博士後期課程1年
Graduate School of Health and Sports Science,
Juntendo University